

## こ と ば

「『それは私の責任です』ということが言い切れてこそ、責任者たりうる」松下幸之助のことば。新型コロナの影響で行事の削減等を余儀なくされている。しかし、こんな時だからこそ「教育を止めるな！」の気持ちで、実施可能な事を見つけ、責任を持って将来に役立つ教育を模索することが、校長の役目であると思う。

(副会長 高崎 康行)



# 三 歩 前 進

いわき市小学校長会

副会長 佐 藤 哲哉



気の利いた四字熟語や教育課題をタイトルにと、自分の頭の中を探ってみても、蓄えの中には見当たらず、結局、職員や子ども達に話している言葉に落ち着きました。

私の高校時代の担任は話が上手で、受け持ちは私達に、よく、学ぶことの大切さについて語ってくれました。「なるほど、そうだよな。」と、感心させられ、やる気を持った記憶が残っています。けれども同時に「話を聞いた時は頑張るぞとやる気になるんだけど、うまくはいかないよな。」と、友達と話した思い出も多いのです。

しばらく忘れていた、そんなことが思い出されたのは、行政職時代に「学級活動(2)」の授業を見る機会が続いた時でした。授業をする先生方は一生懸命資料等の準備をし、ゲストティーチャーを招いたり、中には動画を作成したりして授業に臨んでいます。子ども達も授業に引き込まれ、授業の終わりには「これから好き嫌いをしません。」「本をたくさん読みます。」「家庭学習をしっかりします。」そんな意欲の高まりを見せて学習を終えるのです。しかし、疑問に感じることが多かったのは、「次の行動に繋がっているのかな。」ということでした。

ご存じの通り、学級活動の学習過程は「問題の発見・確認→原因追及・解決方法の話し合い→個人の意思決定」で例示されています。個人の意思は、個（自分自身）に応じた具体的な解決方法やめあてまで踏み込み、事後の活動として「実践と振り返り」に繋げる流れです。多くの学級活動の授業では、子ども達が、自分は次に具体的に何をすればよいかというところまで踏み込めていないのでした。私の高校時代に準えると「勉強頑張るぞ」と決意をしたところまでの姿です。自己に応じた二歩目、

三歩目の具体的な行動段階に進めないまま時が過ぎ、時とともに意欲が減退してしまうのでは、ということです。高まつたやる気や意欲は、結局、叱られたり怒鳴られたりといった嫌悪刺激と同様で、時間が経つにつれて効力が無くなってしまうのではないかと見られたのでした。

「第一歩を踏み出すだけでは、立ち止まってしまうこともあるけれど、三歩目まで踏み出てしまえば、勢いがついて進んでいく。」受け売りの言葉ではありますが、学級活動の学習過程に置き換えて活用をしています。個人の行為であれ集団としての取り組みであれ、何事も、課題に応じた具体的な実行段階まで進み始めれば、取り組みによる自分自身の進歩、集団の変化などが見られるはずです。改善していく実感や周囲からの好評価などは、その行為を持続・継続させるエネルギーとなっていくものです。これは、子ども達にも話していることですし、人事評価面談時にも、職員の課題を明確にし、具体的な行動につなげる上で活用できる手法だと考えています。

最近のコロナ禍は目の前に立ち塞がる大きな課題です。しかし、これに立ち向かうべく、校長会においては、方部や市としての集団思考の場が広がっていることも感じています。校長会という集団の、組織としての機能の高まりを実感しているのです。そうなのです。学級活動における解決方法の話し合いも、集団思考であることに意義があったのです。個人で悩んでも始まらない。みんなで考えて、自分（自校）に合った具体策を行動に移し評価していくことが大切です。「目標達成にあと一步届かなかった。」と悔やまないよう、最初に踏み出す三歩を大切にしたいと、自分にも言い聞かせる今日この頃です。

# 新会員のひとこと

～ともに一枚岩の担い手として～



## 覚悟を持つて

新型コロナウイルス感染症が広がりを見せる中、校長としての第一歩を踏み出しました。例年とは大きく異なる状況下で入学式をどのように執り行ったらよいのかが最初の課題でした。先輩の校長先生方から助言をいただいたり、教職員との話し合いを重ねたりしながら入学式を迎えるました。内容を縮減した入学式ではありますましたが、終了後、新1年生や保護者の皆様、教職員の笑顔に安心させられました。

今後も、新型コロナウイルス感染症防止対策を踏まえた教育活動を進めていかなければなりません。子ども達と教職員の安全・安心を優先に、いろいろな場面でよりよい判断をしていきたいと思います。そのためには、学校外の状況にも常にアンテナを高くして情報を得ながら、自分なりに見通しを持っておくことが大切だということを実感しています。

校長としての覚悟を持って精一杯取り組んでまいりますので、市校長会の皆様方のご指導、ご助言をよろしくお願ひいたします。  
(中央台南小 志賀 秀幹)



先日学校探検で校長室を訪れた1年生が、遠慮ぎみに「この（校長室の）椅子に座ってみてもいいですか」と言ってきました。「どうぞ」と言って座ってもらい、感想を聞いてみると、しばらく考えて「ぼく校長先生になりたい」と言ってくれました。今般の長期に渡る臨時休業や行事の中止等はありましたかが、子ども達は幼いながらもしっかりと希望をもっており、当然ですが子ども達の未来は無限に広がっていることを実感しました。そして、この子らの安全と学びを絶対に保障していくしかなければならないと、本職の職責の重さを改めて認識しました。子ども達にとって、一生に一度の「今年度」であることを心に留め、本校教職員と保護者、地域の方々と手を携えながら、合い言葉「みんなが明日も来たくなる学校」づくりに全力で取り組んでまいります。

末筆になりましたが、日々、方部長さんをはじめ会員の皆様に相談させていただいておりますが、いつも親身になってご助言をいただきしておりますことに心から感謝申し上げます。今後もご指導よろしくお願ひいたします。

(小玉小 鈴木 賢一)

## 「地域とともにある学校」を目指して



宮小学校の校長として、今年度は、「心豊かなたくましい自立した子どもの育成」と「魅力ある学校づくり」に取り組んで参ります。

通常の教育活動を進めすることが困難な現状ではありますが、今だからこそ、新学習指導要領の趣旨を踏まえ、教職員が一丸となって授業改善とカリキュラム・マネジメントに取り組むことで、予測困難な未来をたくましく生き抜く子どもを育成して参ります。

また、伝統ある宮小学校の最大の魅力である「地域に根ざした教育活動」を学校の中心に据え、本校ならではの教育を展開し、その魅力を発信して参ります。

保護者の方や地域の方からは、今年109年を迎えた宮小学校への誇りと期待が伝わってきます。その期待に応え、子どもも、教職員も、そして地域の方も誇れる宮小学校であり続けられるよう、いわき市小学校長会の諸先輩方からご指導を賜りながら、「地域とともにある学校」を目指し、新任校長として精一杯頑張っていく所存です。

(宮小 田仲 裕一)

## 手を携えながら



耳を澄ますと、元気に学ぶ子ども達の声と鶯の囀りが聞こえています。豊かな自然と温かな保護者や地域の皆さま、そして、純粋でキラキラと輝く笑顔の子ども達。そんな素敵な学校で勤務できることを、心から嬉しく思っています。

今年度は臨時休業が続き、教育活動も例年通りとは行かない状況が続いています。このような中、子ども達の学びを保障するとともに生命を保障することが学校の責務であると強く感じています。

この責務を全うするためにも、本校職員はもとより併設している内郷第三中学校の後田校長先生をはじめとした教職員の皆さん、そして保護者や地域の皆さまとも手を携えながら、知恵を出し合い、試行錯誤を重ねながら着実に教育活動を進めていきたいと思います。

まだまだ経験不足のため、校長としての職責を全うする上で、迷い、苦しむこともあるかと思います。その際は、先輩校長先生方にご指導ご鞭撻をいただきたいと思っております。どうぞよろしくお願ひいたします。

(高野小 甲高 乾)

## 「地域のよさを生かした学校づくり」を目指して



4年間の双葉町教育委員会勤務を経ての江名小学校勤務は、管理職としての責任感と類を見ない感染症対策への緊張感のある毎日。そして子ども達の元気なあいさつやたくさんの笑顔で癒やされる満足感を感じる毎日です。

江名小学校は江名漁港が近くにありながらも山に囲まれた緑豊かな学校です。学区には諏訪神社があり、三匹獅子舞の伝統行事が大切にされ、3～5年生が伝統文化の継承に大きな役割を果たしています。歴史と自然、人々の調和のある江名地区は探せば探すほど、たくさんの方が発掘できる素晴らしい地域です。

このような地域の良さを生かし、地域の教育資源や人材を活用した教育を中心に、豊かな体験活動を大切にした教育活動を展開していきたいと考えています。「開かれた学校づくり」がさけばれて久しくなります。今年度は感染症対策のため、HPや学校便り等で学校の様子を伝えていくことが中心となります。全ての地域の方々に、子ども達の元気な様子や明るい声を届けられるよう精一杯発信していこうと決意しているところです。

(江名小 横田 裕之)

## \* \* \* \* \* 新任校長としての抱負 \* \* \* \* \*



やっと「子どもの声」が学校に戻ってきました。ほっとするとともに、当たり前ではありますが、「子どもあっての学校である」ことを痛感しています。

さて、子どもを教育するにあたって基盤となるのは、教職員の心身の健康と子どもの教育環境の整備を考えます。普段から教職員とのコミュニケーションを大切にし、その心身の状態を適切に把握するとともに、教職員一人一人が持ち味を十分に、そして効果的に発揮できるように環境を整えて行きたいと思います。また、校庭や花壇がよく整備された美しい環境の中で学らせたいと思い、その整備に努めています。子ども達には、「はきものがそろうと心がそろう。心がそろうとはきものがそろう。」という言葉を昇降口やトイレの入口に掲示し、靴やスリッパを揃えることの大切さを呼びかけています。

校長として、その責務の重さを受け止め、どのような状況下にあっても、しっかりと学力を身につけさせ、「たくましく生き抜くことができる子どもの育成」を図って行きたいと思います。 (永崎小 緑川 幸則)

## \* \* \* \* \* 「安心・安全」な学校づくり \* \* \* \* \*



4月に新任校長として着任以降、新型コロナウイルス感染症に対応する日々でした。6月になりやっと通常授業での学校再開。学校に子ども達の声が戻り、同時に先生方にも笑顔が見られるようになりました。

反面、今回のコロナ禍に伴い、改めて学校教育における危機管理意識の重要性を痛感しました。それは、子ども達の命を守ることであり、学校としての状況や実態に応じた的確な対応です。換言すれば、学校としてのチーム力や校長の主体的な判断力が求められています。今後どのような状況下であっても、子ども達の命を守り「安心・安全」な教育環境を整えることが、学校が果たすべき

き責務であると感じています。

「今、目の前にいる子ども達が大切、そして将来社会の担い手となる子ども達が大切」。子ども達の夢や希望を実現させるためにも「安心・安全」な学校づくりを学校経営の根幹とし、日々精進して参ります。まずは、子ども達の「心のケア」から始めます。会員の皆様には、今後ともご指導のほどよろしくお願ひいたします。

(勿来二小 大平 孝憲)

## \* \* \* \* \* 「地域とともにある学校」を目指して \* \* \* \* \*



創立147年の歴史がある川部小学校に赴任して、3ヶ月が過ぎました。その間、保護者や地域の方々から、「感染症対策で先生方は大変ですね。みんなで協力しますよ。」「こんな時こそ地域を頼るといいですよ。」

など、ありがたい言葉をたくさんいただきました。臨時休業中や段階的な学校再開期間中においても、ご理解とご協力をいただき感謝しています。

本校のホームページのトップ画面には、「子どもは地域の希望 そして誇り」と表記しています。恵まれた地域環境を生かし、保護者や地域・関係機関との連携による教育活動をとおして、子ども達の社会性や郷土愛を育んでいきたいと考えています。そのために、感染症対策を十分に講じたうえで、特色ある教育活動と少人数のよさを生かした指導に努めています。

いわき市小学校長会の皆様方には、温かく教え励ましていただき感謝しております。今後も、ご指導を賜りながら、全力で取り組んでまいります。どうぞよろしくお願ひいたします。

(川部小 石川 勝佳)

## \* \* \* \* \* 『伝統を受け継いで』 \* \* \* \* \*



臨時休業中、24日ぶりの登校日。班長さんを中心になっかりと整列して登校。さわやかなあいさつ。上学年は朝の準備を済ませると自ら係活動・委員会活動へ。他の子ども達は着替えをして朝のマラソン。その後、手洗いを済ませると席について読書……。

久しぶりの登校日ということで、子ども達の心身の状況を心配していましたが、何事もなかったかのようにひたむきに自分のすべきことに取り組む子ども達の姿に心を打たれました。入遠野小学校140年以上の歴史と伝統の重み、家庭・地域の教育力の高さ、先生方のこれまでの指導の積み重ねの確かさを実感するとともに、自分に課せられた重責に身が引き締まる思いでした。

実直で明るい61名の子ども達に、多様に変化する激動の社会をたくましく生き、新しい価値を創造できるような資質・能力を育むために、家庭や地域の皆様と手を携えて全力で学校経営に取り組んでいきたいと思います。いわき市校長会の皆様には、今後ともご指導・ご鞭撻を賜りますようよろしくお願ひいたします。

(入遠野小 五十嵐洋之)

# 各専門部の活動



部長 加藤 満福

県及び市小・中学校長会の活動方針・重点を踏まえ、教育諸条件の整備充実のため次の活動等を推進します。

## 1 調査研究のこと

- 教育行政のこと
- 教職員人事の基礎資料・配置のこと
- その他、県小・中学校長会の諸調査のこと

## 2 提言活動のこと

- 教育行財政のための資料作成のこと
- 教職員人事に関する各種提案・提言のこと
- 関係機関に対する各種提案・提言のこと

## 3 その他

- 県行財政部との連絡調整、支部会の開催・運営



部長 木田 寿憲

令和2・3年度の県の研究主題を踏まえ、市校長会研究部の活動の方針の視点を明確にし、計画的な実践研究を推進すると共に、校長としての見識を深め、質の高い学校経営の実践に努めてまいります。

今年度も5つのブロックで、それぞれ「学校経営と校長の在り方」の視点を明確に、ブロックの主体性と独自性を生かして組織的・計画的に研究を進めていきます。

研究の手順としては、各ブロックごと視点に沿った研究を推進して報告書に集約します。(11月) 研究の成果を他ブロックと共有し、次年度の東北連小福島大会に向けた研究の集約と方向性を確認します。(2月)

なお、新型コロナウィルスの感染拡大防止の関係より7月末の研究協議会及び提言書の作成は中止とします。



部長 大槻 貴

今年度もいわき市の小学校教育活動の充実のために、広報活動を通して寄与することを目的に活動します。「広報」の発行を7月と2月の年2回とし、市小学校長会活動目標や県や市の施策に沿った教育活動、各方部の特色ある教育活動の取り組みなどを特集記事に取り上げる予定です。

本年度の各号の発行予定と主な内容については、次のように計画しています。

◎第346号（7月）

新入会員の抱負、各専門部の活動計画等

◎第347号（2月）

特集、各方部の活動状況等

## 生徒指導部

部長 大沼 廣記

当面する生徒指導上の課題を解決するため、計画的、継続的な活動を推進します。

- 1 児童の問題行動等の実態把握のため、必要に応じて調査分析を行い、その解決の方策を練る。
- 2 児童・生徒に関わる事故や問題行動等の未然防止、早期発見、早期解決に向け市教委・教育事務所・警察等の関係機関やその他諸団体との連携を図ると共に、幼保、小・中・高校間で情報を共有し、指導にあたる。
- 3 望ましい生活習慣を身につけさせるため、幼保・小・中学校及びPTAと連携して指導に取り組む。
- 4 いじめ（コロナウイルスに係る事案も含めて）・不登校等悩みや不安を抱えた児童・保護者に対して、S CやSSW、関係機関等と連携してその解決に努める。

## 事務局だより

幹事長 高野 淳一

### 【令和2年度 活動目標】

『ともに学び、考え、行動する校長会 いわきの未来を担う心豊かでたくましい子どもたちの育成に向けて』

昨年度末からの新型コロナウィルスの世界的な流行を受け、本市においても感染防止のための臨時休業を2度にわたり実施しました。6月1日から通常の教育活動を再開し、「学校の新しい生活様式」の下で実態に応じた学校生活に取り組んでいます。今年度は、感染防止のため児童の健康・安全を第一に、校長会主催行事を中止することにいたしました。今後は、各教科の指導方法や各行事の持ち方等、これまでにはない対応が求められることと思います。「乗り越えられない試練はない」という言葉を信じ、市校長会として必要な情報の収集に努め、全ての校長が心をひとつにし、連携・協力を深めこの課題に組織的に対応できるよう努力していきたいと思います。



### 編 集 後 記

「広報」第346号は、9名の新会員の校長先生方の抱負を特集しました。故野村克也監督の言葉に「一を大事にせよ」というものがあります。新会員の校長先生方の決意から、校長としての「一」＝「初心」を忘れず、学校経営にあたっていかなければならないことを、再認識しました。

本号を発行するにあたり、ご協力いただきました校長先生方に心より御礼申し上げます。

(小白井小 鈴木 喜克)